年間授業計画　新様式例

高等学校 令和5年度（１学年用） 教科　数学　　科目 数学Ａ

教　科：　数学　　科　目：　数学Ａ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　6 組

教科担当者：（1組：村越　（2組：北川　（3組：北川　（4組：今村　（5組：村越　（6組：北川

科目　数学Ａ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	場合の数	○具体的な日常の事象に対して，集合を考えることで，人数などを求めることができる。 ○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ○集合を考えることで，日常的な事柄などを，集合の要素の個数として数学的に数えようとする。	○	○	○	13
	中間考査			○	○	○	1
	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	確率	○確率の意味，試行や事象の定義を理解している。 ○試行の結果を事象として捉え，事象を集合と結びつけて考察することができる。 ○日常の事象における不確実な事柄について判断する際に，期待値を用いて比較し，考察しようとする	○	○	○	13
	期末考査			○	○	○	1
2学期	平面図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	平面図形	○線分の内分・外分，平行線と比などの基本事項を理解している。 ○定理を適切に利用して，線分の比や長さを求めることができる。 ○図形の性質を証明するのに，既習事項を用いて論理的に考察することができる。また，適切な補助線を引いて考察することができる。 ○線分を内分・外分する点や，三角形の角の	○	○	○	13
	中間考査			○	○	○	1
	空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	空間図形	○空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。 ○空間における直線と平面が垂直になるための条件を，与えられた立体に当てはめて考察することができる。 ○空間における図形の位置関係について，積極的に考えてみようとする。	○	○	○	13
	期末考査			○	○	○	1
3学期	さまざまな人間の活動の中から，整数を中心とした数学的な要素を見出し，数学の内容の理解を深めると同時に，現実の事象を，数学を用いて考察できるような力を培う。	数学と人間の活動	○自然数の素因数分解を求めることができる。 ○4の倍数の判定法から類推して，8の倍数の判定法を考察することができる。 ○身近な事象について数学的に捉え，最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。 ○日常生活における具体的な事象の考察に，	○	○	○	13
	期末考査			○	○	○	1
							合計
							70